



しんやはぎ

第6号 2005.8

「しんやはぎ」は、矢作川の沿岸で国営かんがい排水事業を実施している、農林水産省東海農政局 新矢作川用水農業水利事業所の広報誌です。



今月の記事 今月の記事

- 上部利用の先例地視察を実施
(新矢作川用水地区・六ツ美幹線水路)
- 工事状況レポート
- 用水管理所完成
- 矢作川用水ものがたり第4回(連載)

矢作川流域の自然

オニユリ(ユリ科)
矢作川の堤防に7月ごろ見られます。背景に白くみえるのは細川幹線水路です。撮影中、周辺をジョギングや散歩を楽しんでいる人を見かけました。





上部利用の計画づくりに向けて先例地を視察しました

平成17年5月14日(土) 六ツ美幹線水路の上部利用を計画している岡崎市赤浜町の住民のみなさん62名がすでに上部利用が行われている明治用水などを視察しました。

「上部利用」とは、パイプラインになって地下に埋められた農業用水路の上部の土地を利用して遊歩道やせせらぎ水路などをつくり、地域の方々の憩いの場として活用してもらおうという計画のことです。使いやすい遊歩道にするために、計画づくりの作業には多くの住民の方に参加してもらっています。視察に参加した住民の方々は訪れる先々で、ボランティア組織の代表や施設の管理をしている土地改良区による説明に熱心に耳を傾けていました。

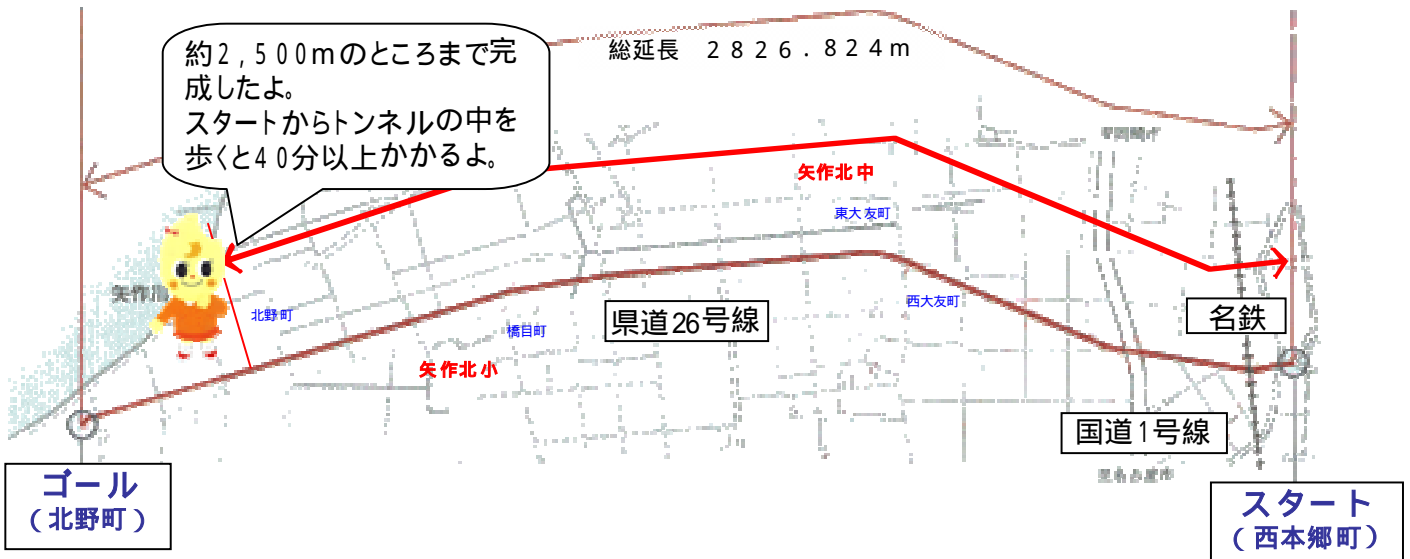


明治用水の上部を利用した遊歩道
(安城市・明治用水花の木地区)



工事状況レポート

第3号(2004.11)で紹介しました直径3.2mの水路トンネル工事(北野Bサイホン[シールド掘削])は、作業が順調に進み、この7月末時点で、約2,500mが完了しました。残りは320mほどとなりましたが、引き続き安全に気をつけて工事を進めていくこととします。





しんやはぎがわようすいのうぎょうすいりじぎょうようすいかんりじょ
『新矢作川用水農業水利事業用水管理所』が完成しました

何をするところ？

矢作川用水下流部を管理します。具体的には、

- ・水路の遠隔監視
 - ・水門やゴミ取り機の監視
 - ・水の配分に関する事務
- です。



作った理由は？

1. 水路をパイプラインにしたことによって、水がはやく下流までとどくようになったので、いろいろな事態にすぐ対処しなければなりません。今までは岡崎市細川町にある管理所で対応してきましたが、もっと水路の近くから管理するためにつくられました。

2. より便利に水が使えるように、用水を管理する作業を行います。

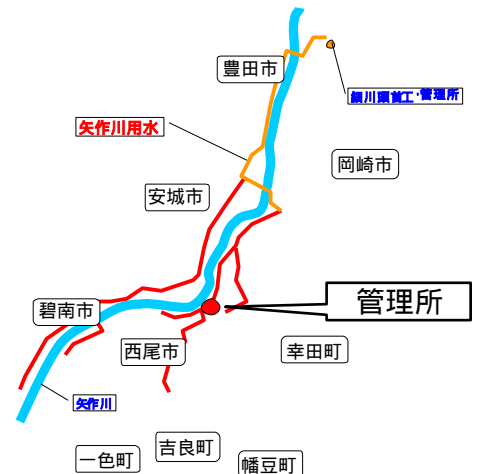
看板にもう一つ名前が？

用水の管理は、関係する土地改良区の集まりである「矢作川沿岸土地改良区連合」の職員がおこないます。また、建物も矢作川沿岸土地改良区連合事務所との共同のものです。



どこにできたの？

管理する水路の真ん中にあたる西尾市西浅井町につくられました。





矢作川用水ものがたり 連載第4回

「矢作川用水ものがたり」の4話目です。今回は西尾市に関係したお話です。

西尾市

坎樋の寸法

●坎樋の大きさをめぐる村々の争い●



1855(安政2)年の大干ばつによって深刻な被害を受けた東瑞村(安城東瑞町の油ヶ淵周辺)は、稲が枯れないようにもっとたくさんの水を手に入れようと、矢作川から水を取り入れる坎樋を大きくしました。困ったのは西瑞村(碧南市上町)や城ヶ入村(安城市城ヶ入町)など下流の村です。というのも、坎樋を大きくすると土地の低いところでは田んぼが水没し、稲が育たなくなってしまうからです。そこで、坎樋をもとの大きさに戻すよう役所に訴えました。役所の命令で、東瑞村では坎樋をいったんは小さくしたものの、一滴でも多くの水が欲しかったため、再び坎樋を大きくしようとしました。利害が対立する村同士の水争いが14年間も続いた後、また役所が間に入り、やっと1870(明治3)年に坎樋の大きさが決定されました。この坎樋は、荒井と呼ばれる場所にあったため、荒井用水と名付けられました。



その後、矢作川と並んで鹿乗川が下流に伸びたので、この坎樋は鹿乗川から取り入れるようつくり替えられました。この文を書くに当たり、「明治村史」(碧海郡明治村編)を参考にしました。

発行元

農林水産省 東海農政局 新矢作川用水農業水利事業所 担当部署：調査設計課

〒446-0065 安城市大東町 22-16

電話番号 0566-74-7327(代表) Fax.0566-71-3265

ホームページ：<http://www.tokai.maff.go.jp/nougyou/seibi/kensetu/sinyahagi/index.htm>

位置図

